

令和7年度 第1回泉州南未来像研究会 議事概要

【日 時】令和7年6月12日（木）17:30～18:00

【場 所】熊取町役場 北館3階 大会議室

【出席者】千代松泉佐野市長 山本泉南市長 上甲阪南市長 藤原熊取町長 城間大阪府市町村局長

■議事概要

●泉州南地域3市1町「地域の未来予測」（案）を示し、同内容を正式な泉州南地域3市1町「地域の未来予測」とすることに合意した。

●泉州南未来像研究会の今後の進め方について、以下のとおり確認・合意した。

- ・研究テーマを決定し、テーマごとに部会を設置し、具体的な検討及び研究を行う。
- ・令和7年度については、「地域ポイント」「公共施設のあり方」「行政運営のあり方」を研究テーマとする。泉佐野市が地域ポイント検討部会、泉南市が公共施設のあり方検討部会、大阪府が行政運営のあり方検討部会の各部会長を担い、原則4市町が全部会に参加する。
- ・研究テーマは、4市町の所管部局が中心となって検討及び研究を進め、研究結果を本研究会へ報告する。
- ・研究テーマによっては、泉州南広域連携勉強会と連携を図る。
- ・今後のスケジュールや各部会で議論する具体的な内容は、担当者間で調整を行う。

■出席者発言

＜開会あいさつ＞

●千代松泉佐野市長

第1回泉州南未来像研究会の開催に際し、会場を用意いただいた藤原熊取町長と熊取町職員の皆様、当初から中心的な取りまとめをしていただいた山本泉南市長と泉南市職員の皆様、研究会の事務局を引き受けていただいた城間市町村局長及び大阪府職員の皆様に感謝している。

日々動いていく現実的な事柄に対し、しっかりと対応していくことは行政の大切な役割だが、明るい未来像を示していくことも重要な役割だと思っている。この研究会で泉州南地域がめざす未来像をしっかりと描いていけるよう泉佐野市として努めていくのでよろしくお願いしたい。

●山本泉南市長

本日の泉州南未来像研究会の開催にご尽力いただいた皆様に感謝。これからが研究会のスタートとなるが、この泉州南の地域では共通する課題がある。消滅可能性都市として本市は位置づけられたこともあり、将来を考えることは責務となっている。社人研（国立社会保障・人口問題研究所）の人口推計などを考えた際には、連携できることは連携をし、前を向いて将来のあり方について考える機会

を作ることは、市長として、政治家として必要なプロセスだと思っている。しっかりと実質的な議論ができるように汗をかいていきたいと考えているのでよろしくお願いします。

●上甲阪南市長

本日はこの場をご用意いただき関係各位に感謝。阪南市は大阪のベッドタウンとして発展してきたが、今は人口減少がどこよりも激しい。市長着任後6カ月だが、このままでは将来、市が単独で運営することが難しくなっていくのではと危機感をもっている。広域連携を含め、近隣市町が協力できるシチュエーションにもっていく必要性を痛感しており、こういった場に参加し、前向きに話をしていきたいと考えているので、よろしくお願いいたします。

●藤原熊取町長

令和7年度第1回泉州南未来像研究会の開催を迎えることができ、大変嬉しく感じている。この研究会は千代松市長、山本市長、上甲市長とともに方向性を共有する場と認識している。

熊取町でも2040年には人口が5千人減少する予測がある中で、庁内でもいろいろな施策、計画を進めているが、1団体で考えるより、近隣市町の皆様と共同で目的に向かっていくことは住民の幸せにつながるものだと考えている。住民から託された生命、財産の安全を追求していくことが我々の責任だと感じている。三人寄れば文殊の知恵という言葉があるように、連携することで住民から喜ばれる未来像をこれから探していきたい。

●城間大阪府市町村局長

本日は泉州南未来像研究会の設置に際して、大阪府が参画することに感謝している。

泉州南の地域は、非常にポテンシャルが高い地域だと感じている。これから人口減少が進んでいくが、将来の課題を的確に捉え、その対応策を皆様とともに考え、しっかりとした未来像を築いていけるよう議論を進めていきたい。ここでの議論が将来の道標になるよう、皆様のお知恵を借りて精一杯努力してまいる。

<議題1 泉南地域3市1町「地域の未来予測」案について>

●千代松泉佐野市長

このエリアでは、コロナの影響で関空からの流れが完全にストップし、転出が多くなった状況があった。コロナが終息し、海外から泉佐野市へ住まれる方も増え転入超過に転じた。

この資料の人口に関するデータは、国勢調査と社人研（国立社会保障・人口問題研究所）予測に基づいて作成されており、今年は国勢調査が実施されるが、結果が出るには時間がかかるため、住民基本台帳の情報などを活用し、より新しいデータに基づいて、資料反映ができるか検討してもらいたい。

<議題2 今後の進め方について>

●千代松泉佐野市長

令和7年度については、「地域ポイント」「公共施設のあり方」「行政運営のあり方」の3つのテーマで部会を進めていくということだが、それ以外のテーマについて研究をスタートさせるためにはどういったプロセスとなるのか。

●事務局

今年度は3つのテーマで進めていく方針だが、それ以外のテーマについても検討を進めたいなどの意見があれば、各市町の担当と調整を行う。

●藤原熊取町長

高齢化が抱える様々な課題の解決に向け、買い物難民の増加などの高齢者対策について、研究していきたい。

●事務局

買い物難民対策などを研究する提案については、後日各市町の担当と調整を行う。

●千代松泉佐野市長

今後、部会や研究会の開催頻度など決まっているのか。

●事務局

部会や研究会の開催回数やスケジュールについては現在未定。

●城間市町村局長

理想で言えば、秋頃に中間報告を行い、意見を出し合って、年度末に向けた方向性を共有することが望ましいが、テーマごとに進捗状況が異なる可能性がある。中間報告については、各テーマの進捗状況に応じて、柔軟な対応をしたいと考えている。

●上甲阪南市長

本日の研究会は、傍聴や報道へもオープンな形で実施されているが、今後の中間報告や年度末報告などの際の情報公開はどのようにされる予定か。

●事務局

本研究会については、会議資料をホームページで公開する予定となっており、今後もフルオープンな形で開催していく予定。

●山本泉南市長

泉南市が部会長を担う「公共施設のあり方」については、議論する幅が非常に大きいテーマである。具体的にどういった方向で検討を進めていくのか、議論をスタートする前に認識合わせをしておきたい。中間報告で報告できるものなのか、場合によっては年度を超えて継続的な検討となる可能性もあるため、柔軟に対応したい。

●事務局

今後始める３つの研究テーマについては、同意いただいたと認識しているが、各テーマにおいて具体的にどのような議論を進めていくのかについては、各市町の担当へ意見照会等を実施して調整していきたいと考えている。

●千代松泉佐野市長

「地域ポイント」については、泉南市が担う「公共施設のあり方」とは異なり、導入するのか、しないのかを首長が判断するもの。導入する場合、予算が伴う面があるが、部会長としてテーマの議論が深まるよう努めていきたい。

<議題３ その他について>

●一同

意見無し

以上